

モジュールB-2 社会調査の手法

1

調査手法の選択

調査手法選択のポイント

ある目的をもった調査を実施する際には、いろいろなことがらを調べる必要がでてきますが、モジュールB-1-2でも説明したとおり、調査には制約があり、調査に割けるお金や時間、投入量にも限りがあります。このため、これらの制約条件を十分に考慮した上で、調査の目的に即した調査手法を活用しなくてはなりません。調査手法の選択については、JICA職員などのマネジメント側のスタッフが判断する場合も多くなってきますので、調査目的と調査手法の特徴、制約条件との関連性を理解しておかなければなりません。この理解が十分でないと、モジュールB-1-2で述べた、「調査の目的に応じた適切な手法が取捨選択できる」ということが適切に行えません。ここでのキーポイントは、以下のとおりになります。

- ◆ 調査の目的を明確にする
- ◆ 目的を達成するために適切な調査手法の絞り込みを行う
- ◆ 制約条件（時間、資金、人材）を考慮して、調査手法の最終決定を行う

定量的・定性的な情報の活用

調査目的に合致した情報が得られるかどうかの判断が調査手法の選択のためには必要となります。

情報には定量的な情報と定性的な情報があります。定量的な情報は調査対象の量的側面を表現するものです。収集したデータに統計学的な分析や加工を加えて数値化したもので、全体の構造や傾向を示すことに優れています。一方、定性的な情報は対象の質的側面に関する情報であり、データは主として文章表現されます。質的側面とは住民のニーズや村の中での人々の関係、地域にある資源とのかかわり方など数字のデータのみ

では十分に測ることができない側面のことです。

例えば、あるプロジェクトで対象地域の農家を対象に簡便な農機具を開発し、実験的に配布したとしましょう。この農機具の使い勝手を農家の視点から評価する際には、2つの調査項目が考えられます。1つは、どのくらいの農家が使い勝手が良いと考えているかを把握する目的、そしてもう1つは、この農機具に関する農家の意見を探ろうという目的です。

それぞれに目的のために準備した調査票の例を図 B-3 に示します。

調査票 1 (選択肢形式)	調査票 2 (自由回答形式)
<p>投入した農機具は使いやすいか？</p> <ul style="list-style-type: none">① とても使いやすい② 使いやすい③ 使いにくい④ とても使いにくい	<p>投入した農機具は使いやすいか？</p>

図 B-3 調査票の例

調査票 1 で得られるデータは数値化が容易で、調査対象とする農家が統計理論に基づいて地域農家全体を代表するように抽出されていれば、全体の傾向を把握することができます。例えば、データを分析した結果、「①か②の回答をした農家が 80% で、概ね農機具の評価は高い」という評価結果になるかもしれません。一方、調査票 2 を用いた調査では、「自分には使いやすい。しかし、女房には重すぎて使いにくい。畑作業は女房がやることが多いので、ちょっと困っている。」という情報が調査結果として得られるかもしれません。農機具の使い勝手を農家の視点から評価するという目的を同じくした場合でも、異なる調査手法を用いることによって得られる情報の幅は広がりを持つことを表しています。単純な例ではありますが、同じ質問内容を調査対象者に投げかけた場合でも、得られる情報は用いる調査手法によって異なる点に留意する必要があることを示しています。

マネジメントの観点から注目すべき特徴は、定量調査の場合には設定された質問を超える情報を得ることはできないこと、したがって調査票の設計が鍵になるということです。一方、定性調査の場合には半構造型の質問票が用いられ、対話型の調査が主たる形態となるので、調査者の力量が重要な鍵となることでしょう。

定量的な情報は、客観的な判断材料としてきわめて重要な価値を持ちます。しかし、「知りたいこと」を満足するためには、それだけでは不十分なことも珍しくありません。調査手法の選択とは、「知りたいこと」、すなわち調査目的の絞込みや明文化を進める作業と、実は表裏一体となるべき作業なのです。

目的別、事業実施段階別の社会調査

表 B-7 (1) では情報別・目的別の調査手法を取りまとめているので、調査手法の選択の際に、活用してください。実施の制約条件に関する情報もありますので参照してください。また、JICA 事業の実施段階ごとに社会調査の目的や、時と場合に応じた社会調査手法を取捨選択することが必要になります。よく活用される社会調査手法を事業ステップごとに分類して、表 B-7 (2) に取りまとめました。



ちょっと一息：「社会調査いろいろ」

まず質問 1 です。「皆さんもよくご存知の国勢調査は、社会調査でしょうか？」

国勢調査は 5 年ごとに実施され、調査時に日本に居住するすべての人(外国人を含む)を対象に、人口、世帯に関し、男女、年齢、国籍、就業状態、仕事の種類、世帯員の数などを調べる国の最も基本的な調査です(総務省ウェブサイトを参照)。さてこのような大規模調査は社会調査と呼べるのでしょうか? 答えは Yes です。国勢調査は全ての世帯を調査することによって、日本の社会構造を見ようとしています。

質問 2 「世界最古の社会調査はいつ、何の目的で実施されましたか？」

いろいろな説がありますが、紀元前 3000 年ごろ、エジプトでピラミッド建設のために、王様の領地やそこにいる住民の特色、慣習、経済的状況などを調査したということが最古の社会調査であるというのもその 1 つです。

表B-7 (1) 調査目的と社会調査手法の種類 (定量的・定性的な情報別)

情報の質	目的	調査手法	調査の内容	制約条件			
				時間	資金量	技術(人材)	
定量的な情報	全体の構造や傾向の確認	質問票を用いたインタビュー調査	統計調査では最もオーソドックスなパターン。アンケート調査よりも精度が高くなるが、調査はかなりコストと時間がかかる。世帯調査(家計調査)などがある。	長い	大	難しい(統計、コンピュータの技術が必要)	
		質問票を用いたアンケート調査	インタビュー調査に比べコストはかからないが、回収率の問題、回収方法によるデータ偏向の恐れがある。日本での国勢調査。	比較的長い(個数による)	比較的大きい(個数による)	難しい(統計、コンピュータの技術が必要)	
定性的な情報	視覚的状況の確認	現地踏査による直接観察	現地を歩いて状況を確認する。簡単であるが、初めてその地を訪れる外部者にとっては有効。	短い	小	簡単	
		現地滞在による参与観察	長期に滞在して、現時状況を観察する。文化人類学的な調査。	非常に長い	投入人材によっては大きい場合もある	やや難しい	
	意識確認	個別インタビュー	個人々人へのインタビュー。意識調査やニーズ調査がある。	個数による	個数による	普通(方法によっては高い専門性が必要)	
		事例研究	長期にわたっての個別観察。追跡調査。定点観測。	長い	個数、期間によっては大きい場合もある	普通	
	特定集団の状況・意識確認	社会階層ランキング	社会階層を確認するRRAルール1つ。	短い	小	普通	
		社会関係図	関係者の関係性を確認するRRAツールの1つ。	短い	小	普通	
		フォーカス・グループ・インタビュー	特定グループとのインタビュー。グループごとの特徴、認識を確認する。半構造型のインタビューが行われることが多い。	短い	小	普通	
		SWOT分析	特定グループの強み、弱み、機会、脅威を確認し、戦略や事業の内容を検討するための手法。	短い	小	普通	
		ジェンダー分析	男女間の労働分担、資源へのアクセス、意識の差異を確認する。	短い	小	普通	
	村や地域の状況確認	キーインフォーマント・インタビュー	長老、村の代表、政府関係者、学校の先生などの地域社会全体を見る視点を持った人たちへのインタビュー。半構造型のインタビューが行われることが多い。	短い	小	普通	
		RRA(農村迅速調査)	インタビューや自覚的に確認できるツールと呼ばれるものを利用した、包括的なデータ収集のための調査。	普通	中	ツールを統合的に使用するためやや難しい	
		ワークショップによる意見確認	集会等のなかでの意識確認。調査ではないが、住民の主体的な取組みにより行われるPLA/PRAからも、外部者は情報収集が可能。	短い	小	普通	
	現状確認	個別課題	問題分析	PCMワークショップなどに代表される、特定地域・事項に関する問題の分析。問題系図などが使用される場合もある。	普通	中	やや難しい

表B-7 (2) 調査目的と社会調査手法の種類 (事業ステージ別)

事業 ステージ 調査の種類	調査の特徴				
	目的など	調査期間 1)	調査対象 者数 2)	手 法	実施タイミング
案件計画段階					
在外職員・ 企画調査員 による調査	要請案件の内容確認。	短期	小	関係者への聞き取り、現地での FGI。	相手国より事業が要請され たとき。要請事業が日本 側のショートリストに載 ったとき。
プロジェクト 形成調査	案件情報の整理、プロジェ クトの形成。	中・短期	中、小	関係者へのインタビュー、現地 でのRRA (FGI、個別対象への SSI、ツール作成)、PCMの問 題分析、SWOT分析、家計 調査などの統計調査。	プロジェクトの要請がされ る前であり、タイミング にはあまり縛られない。
事前調査	要請案件内容の妥当性チェ ック。日本からの調査団ベ ースか在外事務所主導によ って行われる。	短期	小	関係者への聞き取り、現地 でのFGI。	プロジェクトの要請受理 後。スポット的な調査が 実施される可能性もある ことから、実施時期は余 裕を持って設定。
事前 (詳細) 調査	事前調査で更に詳細調査の 必要性が確認された部分に ついて、集中的な情報収集。	(長) 中・短期	(大) 中、小	関係者へのインタビュー、現 地でのRRA (FGI、個別対象 へのSSI、ツール作成)、PCM の問題分析、SWOT分析、 家計調査などの統計調査。	事前評価の後、再調査が 必要とされた場合。実施 タイミングは、案件実施 協議ミッション派遣時と 密接に関連する。
事業実施中					
ベース ライン調査	比較的広範囲の調査を実施 し、事業実施前の現状を把 握。指標データを取ることを 目的に行われる場合が多い。	中・長期	大、中、 小	関係者へのインタビュー、現 地でのRRA (FGI、個別対象 へのSSI、ツール作成)、PCM の問題分析、SWOT分析、 家計調査などの統計調査。	プロジェクトの本格活動 の実施前。PDMの指標 策定時。
アクション リサーチ・ PLA	外部者による調査が目的で はなく、計画、実施し、活動 の結果を対象者自身が検証、 次の活動へとつなげていくた めのプロセス。実際の活動を 行いながら、活動による影響 を確認する。確認事項をも とに、その後の活動内容を 修正・活動項目を追加。	(中・短期)	大、中、 小	問題分析、アクションプラン の作成・実施・モニタリング・ 評価。評価を受け新しいア クションプランの作成・実 施。	プロジェクト期間を通し て。もともと住民主体の 活動のため、プロジェクト 終了後も住民が実施可能。
スポット的 な調査	事業実施中に更に情報がほ しい場合、活動中に問題が 起こりその理由を確認する 場合、活動の成果が予想以 上にあがり、その理由を確 認する場合、などに実施。	中・短期	中、小	実際の活動から得られる情 報、関係者へのインタビュー 、現場でのRRA (FGI、個 別対象へのSSI、ツール作 成)、PCMの問題分析、 SWOT分析、家計調査など の統計調査。	プロジェクトの活動期間 中に必要に応じて。
(モニタ リング)	定期的な活動の進捗状況の 確認、活動から発生する諸 問題、成果の確認。	短期	中、小	活動を通じての情報収集、 事業対象者・関係者への インタビュー。	活動期間中6カ月に1度。
事業終了時 終了後					
インパクト 調査	活動インパクトの確認。	中・短期	大、中、 小 (個数によ って)	関係者へのインタビュー、現 場でのRRA (FGI、個別対 象へのSSI、ツール作成)、 PCMの問題分析、SWOT分 析、家計調査などの統計 調査。	最終評価時もしくは活動 終了間際、活動終了から 一定期間後。

1) 期間 短期：1～2週間、中期：半月～1カ月、長期：1カ月以上

2) 対象者数 小：10～20人、中：20～50人、大：50人以上

略語 RRA：農村簡易調査、FGI：フォーカス・グループ・インタビュー (ディスカッション)、SSI：半構造的な質問票を用いたインタビュー

2

各種調査手法の特徴、メリット・デメリット

前述の表 B-7 では、いくつかの社会調査手法が紹介されていますが、ここでは主だった調査手法の概要と特徴を紹介します。

調査票でのインタビュー・アンケート調査

(1) 調査票を用いたインタビュー・アンケート調査

調査票を用いたインタビュー・アンケート調査では、全対象者に対して実施される全数調査（しっかい調査）と、全体の対象者の中から何人かを選択して調査を実施する標本調査（サンプル調査）の2種類があります。全数調査か標本調査かの選択は調査課題や調査対象となる母集団の特徴、調査にかけられる人的・金銭的資源や時間的制約から判断をする必要があります。人的・金銭的資源や時間的制約に余裕がある場合は全数調査が可能かもしれませんが、標本調査はこのような条件を十分に満たすことができない状況において、有効な手段となります。しかし、どのようなサンプリング抽出方法を用いるかにより、調査結果の精度や調査に係る時間も異なります。したがって、調査手法の選択だけでなく、サンプリング方法の選択も注意が必要です。



ちょっと一息：サンプリングは重要です

電話での聞き取りや街頭でのインタビューによる調査がよく実施されています。例えば、電話をかけて、現在の日本の政治について1,000人に答えを聞けば、いろいろ興味深い傾向が分かってきますが、これは全体の傾向を正しく反映していると思いますか？調査した人は、電話帳から適当に番号を抽出してかけるのだと思いますが、このサンプリング法は適当といえるでしょうか。

例えば、まずこの方法だと、電話を持っていない人にはアクセスできません。また、電話帳に載っている番号は、本人が掲載を希望した人のみですから、掲載を希望しなかった人にはアクセスできません。もしお昼間に自宅に電話をしていたら、お勤めしている人はアクセスが難しくなります。自営業の方か主婦/主夫へのアクセスが中心になります。また、現在は携帯電話が主流となっていますので、もしかしたら若い人は固定電話を持たない傾向にあるかもしれません。

どうですか。電話帳で調べて電話するというサンプリングの方法では、これだけ条件が絞られた人たちにアクセスしてしまうということです。このような、非常に特徴的なグループにコンタクトして聞いた意見は、全体の傾向を反映しているといえるでしょうか？もちろんNoですね。サンプリングのやり方を間違えると、せっかくの調査もあまり意味がない結果しか得られなくなってしまいます。

アンケート調査は質問用紙の回収率が悪かったり、回収方法に問題があると、回答結果に偏向が出る可能性もあり、データの質が低い場合があります。また、途上国では比較的識字率が低いため、一般住民向けのアンケート調査はあまり適切ではない場合が多いです。政府関係者など、文字が読めて、質問内容が理解できるという前提条件が担保される場合などを除いて、アンケート調査の実施は相当慎重になった方がいいでしょう。

他方、インタビュー調査はデータの信頼性が高くなると考えられます。しかし、直接回答者と会う必要があり、アポイントの取り付けなど事前の準備が大変な作業となり、調査対象者数が多ければ調査にかかる期間は長くなり、調査経費も非常に高くなる場合があります。

モジュール A-2-5 でも議論しましたが、調査票に書かれた質問は、回答者に理解してもらえて、初めて答えが返ってくるわけですから、回答者にとって理解しやすいものでなくてはなりません。また、調査票を用いて定量的情報を集める場合は、質問を超える情報は得ることができないということを認識する必要があります。したがって、調査票の構成、質問の内容が、収集データの質を決める鍵になります。





ちょっと一息：こんな人なら話したい。そういう調査者になりましょう。

インタビューをしている時には、どんな態度でいけばいいでしょうか？相手の立場に立って考えてみましょう。

1) 相手になごんでもらう

インタビューに答えるのが慣れていない回答者もあります。相手にリラックスしてもらいましょう。最初は調査者の自己紹介や調査の目的、情報の取り扱い・プライバシーを確保する約束、世間話など、相手が余裕を持てるような時間を最初に持ちましょう。まずは笑顔ですね。

2) イライラしない

調査中はイライラしてはいけません。質問が進まない、的を射た回答が返ってこない、通訳の人が内容をよく理解できていないなどなど、調査中に調査者をイライラさせることは山ほどあります。でも決してそんな表情は出さないでください。回答者には貴重な時間を割いてもらっているのですから。質問が進まない場合は、次の日来るくらいの気持ちでいましょう。回答が的確でないときには、別の言い方で同じ質問をしたり、もっと噛み砕いた聞き方をすればいいでしょう。通訳の人があまり理解できていないようなら、一度休憩を取って、ちょっと打ち合わせてみましょう。

3) いろんな方法で確かめる

すでに言及しましたが、回答が的確でない場合は、いろいろな方法で確認してみましょう。質問の意味が分かっているのかをまず確認し、よく分かっていないようなら、別の言い方をしてみましょう。図に書いて見せてもいいですし、しぐさを見せつつ説明してもいいでしょう。回答者には抽象的な回答をしてもらわず、実際の具体例を話してもらった方がよく分かります。

4) みんなが話せるように

グループインタビューのときは、参加者の座る位置や発言頻度に気を付けましょう。恥ずかしがりやで、人の背中に隠れているような人がいたら、座る位置を途中でシャッフルしてもいいでしょう。あまり話さない人がいたら、意図的に話を振ってみましょう。発言の機会を与えられたら話せるという人は、意外に多いですよ。

半構造型インタビュー調査

半構造型インタビュー（Semi-Structured Interview: SSI）とは、細かい質問項目を設定せず、大きな項目のみを設定した質問票を使って行われるインタビューのことです。こうした調査票のあり方を「半構造型」と呼んでいます。

構造型の調査票では、質問はすべて調査票の中に記載されていて、それを一つ一つ聞いて答えを確認する作業を行います。前述の調査票を用いてのインタビュー調査・アンケート調査はこれに該当します。

他方、半構造型の調査票の場合、大まかな項目のみが記載されていますから、質問の詳細は回答者とのやり取りの中で臨機応変に項目を設定し、随時聞き取ることになります。対象者が有する情報の特性を見極めて、情報の質が高い部分を深く掘り下げていくようなやり方が有効です。いわゆるオーダーメイドの調査で、調査対象者によって質問項目が全然違ってくる可能性もあります。したがって、構造型でがっちり固められた調査票を使うよりも、半構造型の調査票を用いたインタビューの方が、調査者に求められる能力は格段に高くなります。調査票を埋めていくという感覚ではなく、どんどんインタビューを発展させて、回答者の意見を引き出ししていくといった感じになりますので、対象地域や対象者に関する基礎的な情報を持つておく必要がありますし、常にそれら情報と調査対象者からの情報をクロスチェックしていく必要が出てきます。

B-2-1 での議論や上述の特徴から分かるように、半構造型の調査表を用いての定性調査の場合は、調査者の力量により調査結果が左右されることがあります。つまり、半構造型インタビューは、インタビューの流れや質問の切り替え、ファシリテーションの仕方などが鍵となるといえます。これは、特定のフォーカス・グループに対するインタビュー・ディスカッション、個人インタビューなどの場で使われることが多い技法です。



フォーカス・グループ・インタビュー
風景

直接観察、現地踏査

現地を踏査しながら、直接的に観察したものを写真やスケッチとして残したり、観察により発見した状況をメモに書き留めたりします。収集された情報をもとに対象地域の平面図や横断面図を作成し、その上に確認された情報を書き込んでいくことも可能です。実際の観察により確認できた情報を地図などの作成を通じて視覚化することにより、現地状況を統合的に知ることができます。

簡易農村調査

簡易農村調査（Rapid Rural Appraisal: RRA）は、包括的な農村調査を簡易かつ迅速に行うことのできる調査手法です。これまでに説明をしてきた半構造インタビュー、直接観察などは、RRAでも使用されます。RRAの特徴としては、1) 複数の視点から確認を常に行う三角検証、2) 最初の仮説の検証を基に次の新しい仮説を検証していくプロセス、3) 柔軟な対応、4) 細部にこだわりすぎないこと、5) ツールの活用、6) 住民から学ぶ姿勢などが挙げられます。

5) で示されたツールとは、地図や関係図、カレンダー、ランキングなどを使って、情報を視覚化・統合化する「道具」のことです。ツールのカテゴリー・種類については以下のとおりです。

表B-8 ツールのカテゴリーと種類

カテゴリー	種 類
視覚系	村落地図（マッピング）、地域断面図（トランセクト）、季節カレンダー、日課表、関係図、ベン図、家計図、労働分担表、財産所有表
ランキング系	階層化・豊かさランキング、対戦ランキング、投票、歴史表
その他	家計調査表、問題分析（PCMの問題分析部分の利用可能）、SWOT分析



現地にある材料を使っての村落地図の作成風景



完成した村落地図

KALENDA JA MSEM
SKIMU JA MBUJUNI
TAR. 22/10/2002

MAMBO HUSIKA	MIEZI JA MWAKA											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1 HAU YA HEWA	PP	PP	PP	PP	PP	PP	PP	PP	PP	PP	PP	PP
2 MAHINDI	PP	P		DD	DD							
3 KARANGA	PP	P	DD	DD								
4 MIFUGO												
5 SOKO	Su	Su	Su	Su	Su	Su	Su	Su	Su	Su	Su	Su
6 FEDHA												
7 MAJI	MW	MW	MW	MW	MW	MW	MW	MW	MW	MW	MW	MW
8 VIBARUA	V+	V+	V+	V+	V+	V+	V+	V+	V+	V+	V+	V+
9 MAENDELEO MAGOMWA YA	MP	MP	MP	MP	MP	MP	MP	MP	MP	MP	MP	MP
10 MAZAO	MH	MH	MH	MH	MH	MH	MH	MH	MH	MH	MH	MH
11 WADUHU WADUHU YA	ME	ME	ME	ME	ME	ME	ME	ME	ME	ME	ME	ME
12 MAJANGA												
13 SHEREHE												

季節カレンダー

	AMARICO	AMARICO	AMARICO
1. GUKOREA MAMA	VV	VV	V
2. BUBUNGA AMARICO	VV	V	V
3. GUBUGA MIBUTO	VV	V	V
4. GUBUGA MIBUTO	VV	V	V
5. GUKOREA MIBUTO	V	VV	V
6. GUKOREA MIBUTO	VV	V	VV
7. BUBUNGA MIBUTO	VV	VV	VV
8. BUBUNGA	VV	VV	VV
9. GUKOREA MIBUTO	V	VV	V
10. KUGUSORWA	VV	VV	V
11. GUBUGA MIBUTO	VV	VV	V
12. KUGUSORWA	VV	VV	V
13. KUGUSORWA (MAMA)	V	VV	V
14. KUBUGA AMARICO	V	VV	V
15. MIBUTO	V	VV	V
16. KUBUGA AMARICO	V	VV	V
17. KUBUGA AMARICO	V	VV	V
18. KUBUGA AMARICO	VV	VV	V
19. KUBUGA AMARICO	VV	VV	V
20. KUBUGA AMARICO	VV	VV	V

労働分担表

KATIKA JA KAZI ZA KILA SIKU
WATAWAKE SKIMU NAKAYUGA
MASKA

KIANGAZI	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
Ufunguo												
Kula												
Makula												
Kipimo mbugo												
Kulima												
Kupitia												
Kuchuka maji												

日課表



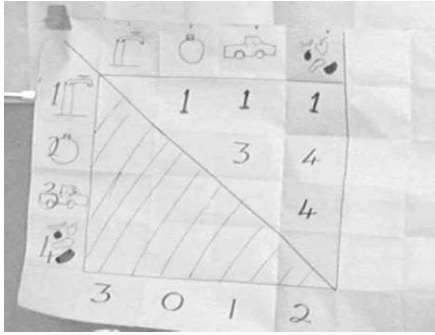
家計調査表



横断面図 (トランセクト) の作成



ステークホルダーの関係図



ペアワイズランキングによる優先課題の選定



メイズを使った投票の風景

RRA では、写真に示したような様々なツールを使用して、統合的に現地情報を収集します。ツールには決まった形はなく、それぞれのアイディアで修正・変更したり、新しいツールを作ることも可能です。柔軟に対応するということが重要です。ただ、RRA にもその限界（デメリット）はありますので、調査の目的に応じた使われ方がされるべきです。RRA のメリット・デメリットについては、以下の表 B-9 に取りまとめました。

表B-9 RRA のメリット・デメリット

メリット

- ✓ 比較的迅速に調査できる
- ✓ 包括的な情報の収集が可能
- ✓ 定性的な情報が収集しやすい
- ✓ 個々の情報の関連性が整理しやすい
- ✓ ツールを使うことにより視覚化できる
- ✓ 多角的な視点による確認

デメリット

- ✓ 定量的な情報入手が難しい
- ✓ 対象地域が大きいと使いにくい
- ✓ 住民との接し方、通訳者の能力により調査の質が大きく影響される
- ✓ 情報を操作しやすい
- ✓ 住民を巻き込むことにより、プロジェクトへの期待を高めてしまうことがある



Box B-3: 社会を見る視点、専門家のバイアス

“Specialists of various kinds tend to view groups of people through the lenses of their own specialisms. Water engineers worry particularly about people using dirty water and having poor sanitation, and health workers become preoccupied with problem may be defined in terms of the ‘specialty’, although a biggest problems, might well hear not about disease or water but about land tenure or loss of income. Thus, the questions must always be asked – who says this problem is the major problem facing the community, and what priority do the people themselves give it?”

出所： *Choosing Research Methods*, Oxfam Publications, 1992, p6

主体的参加による学習と行動

主体的参加による学習と行動（Participatory Learning and Action: PLA）は参加型農村調査法（Participatory Rural Appraisal: PRA）と内容的にはほぼ同じものと考えられていますが、後者は調査という和訳がついているために、その内容が誤解されやすいので、ここではPLAとして説明します。

JICAの業務指示書に「各サイト1週間でPRAを実施してください。」といった書きぶりのものが以前ありましたが、これは基本的にPRAを調査手法と誤解から生じたものと推測できます。RRAについては、外部者が情報を取るための調査手法に位置付けられますが、PLA／PRAは調査手法とは全く異なるアプローチです。

PLA／PRAの考え方の大原則は、外部者はファシリテーターとして、住民達の主体的な活動を手助けするにすぎず、主体はあくまでも住民です。ファシリテーションをする場合は、RRAで紹介したようなツールを使う場合が多いのですが、あくまでも住民の気付きを促すためのきっかけを作っているにすぎません。したがって、外部主導で情報を収集するRRAのツールの使い方とは、全く目的が違います。またRRAでは住民の知識から学ぶ姿勢が重要ですが、PLA／PRAではそれを超えて、住民と共に学ぶという姿勢が強調されます。外部者は住民自身が学んでいくことを支援し、直接的な介入というよりは、活動の触媒となるよう、黒子としてかかわることが重要です。



事例分析 B-5: PRAによる社会的準備

～インドネシア・スラウェシ貧困対策支援村落開発計画～

中央集権化が徹底していたスハルト政権以前のインドネシアでの地方行政官は中央政府が企画立案した事業をトップダウンで実施する方式であったので、末端村落の事情と密接に関連した村落開発事業の実施は困難であり、自立発展性が課題となっていた。この事業体系に慣れた行政官が住民参加型の計画立案事業の可能性について学ぶには、座学のみでは困難であったことから、専門家はC/Pに対し、PCM研修やPRA研修を対象地域の村落において実施した。これらの研修を通じて行政官は住民とのコミュニケーション能力を高め、参加型開発の意義について学ぶことができた。また、地方行政官のマインドセット（考えの枠組み）の変革が進み、その後、参加型の村落開発システムに移行していく上で重要な社会的準備となった。

同様に、村落ではPRAを行うことにより、住民同士がディスカッションや問題分析に取り組む契機となった。住民の自立化、問題解決能力を高め、地域社会がプロジェクトを行うための社会的準備となり、既存の村長だけでなく、意欲的な住民や活動の発掘の契機ともなった。

しかしながら、PRAが社会的準備の契機にはなりえても、継続するとは限らない。従来のトップダウンの慣習から抜けきれない村長もあり、このような住民による協議などの活動は継続していかなければならないこともその後のフォローアップ調査で明らかになっている。



事例分析 B-6: PRA の実施

～マリ国セグー地方南部砂漠化防止計画調査～

村の自然資源の利用状況、社会・経済、営農技術などの現状を住民の認識体系に沿って分析解明したい場合、PRA が効果的な場合がある。各種情報の収集や情報の体系化を住民自身が行うことから、特にマリの案件では自然資源の劣化の影響について正確に認識し、改善していく意欲の向上を図ることが可能になった。マリの砂漠化防止調査計画ではベースライン調査として、村長、サンプル世帯へのヒアリングによって定量・定性的な情報を入手した上で、PRA も組み込んだ。特に砂漠化防止のための実証事業実施のために重要だとされた伝統的組織の活動実態の把握や顕在化していない労働提供などについても分析を試みた。住民自らが各種対策活動の実現可能性や優先度を考えることで、計画作りに参画し、その後の活動への問題意識を高めることが可能になった。

参加型アクションリサーチ

参加型のアクションリサーチの定義は、統一された明確なものがないようです。ただ、大きくは、いわゆる「外部者による学術的なりサーチ」ではなく、「受益者本人達が計画・実践を通じて、積極的に仮説を検証し、知識を習得していく過程」といえるでしょう。

例えば、農業の適正品種試験などは、国の研究機関や試験場などで行われることがほとんどです。これを農民レベルで推薦品種の簡単な栽培計画を立て、実際に栽培・観察しながら、現地の状況に適した品種を選抜していくといったアクションリサーチは、比較的多くの地域で行われています。受益者本人が、簡単な試験計画を作成し、実際に生育を観察する過程で、なぜうまく育つのか、育たないのか、品質はどうか、高い値段で売れるのか、売れないのかなどを自分達自身の目で確かめていくのです。したがって、アクションリサーチにより確認された結果は、当事者にとっては疑いようもない事実として受け止められ、適正と判断された技術は積極的に取り入れようとするが多々あります。

SWOT 分析

SWOT 分析の SWOT とは、強み (Strength)、弱み (Weakness)、機会 (Opportunity)、脅威 (Threat) のことで、この 4 つの項目を軸として組織などの状況を評価する手法です。S と W は組織などが抱える内部要因であり、O と T はその外部的環境となります。SWOT 分析は、シンプル SWOT 分析とクロス SWOT 分析の 2 つに分類できます。

シンプルSWOT分析では、4つの要素を抽出し、以下のように整理し、内部・外部の要因とその好影響、悪影響を見て、全体の状況を分析します。

表B-10 シンプルSWOT分析の4つの要素

	好影響	悪影響
内部要因	強み (S)	弱み (W)
外部要因	機会 (O)	脅威 (T)

他方、クロスSWOT分析では、表B-11のようなマトリクスを作成し、内部要因と外部要因の組み合わせによる分析を行います。組み合わせによる対応の指針が示されているのが、シンプルSWOT分析の違いとなります。

表B-11 クロスSWOT分析の4つの要素

		外部の環境	
		機会 (O)	脅威 (T)
内部の要因	強み (S)	積極的な対応	差別化対応
	弱み (W)	段階的な対応	守り、撤退

SWOT分析は、実施が簡単なためフォーカス・グループ・インタビューやアンケート調査などでよく活用されています。地域や組織が置かれている状況を概観的に視覚化することには長けていますが、分析参加者の主観的な部分が多くなります。このため、詳細で客観的な分析には他の手法も活用し、内容をクロスチェックする必要があるでしょう。

調査手法別のメリット・デメリット

ここまでいくつかの社会調査手法について紹介しましたが、各手法のメリット、デメリットについて、次表に取りまとめました。調査の目的や制約条件（時間、資金、人員など）を勘案しながら、適切な手法を選ぶ際の参考にしてください。

表B-12 (1) 社会調査手法のメリット・デメリット

調査法	メリット	デメリット
調査票を用いたインタビュー調査	<ul style="list-style-type: none"> ・データの信頼性が高い ・統計処理ができる ・広域を対象とした調査ができる ・的確な回答が得られない場合は、質問を繰り返す（言葉を変えて聞き直す）ことにより、確からしい回答を確認できる ・直接対話をすることで、対象者の表情や雰囲気からさまざまな側面を見ることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間がかかる ・コストが高い ・アポ取りなどのアレンジが大変 ・回答者からの信頼を得て本音を聞くのが難しい ・プライバシーの保護に気を付ける必要がある ・対象者にとって迷惑な場合がある（特に時間的に） ・データの解析に時間がかかる ・調査員の質に左右される ・質問内容にない事象をとらえられない
調査票を用いたアンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> ・比較的簡単にできる ・大量のサンプルを確保しやすい ・統計処理ができる ・広域を対象とした調査ができる ・インタビュー調査よりもコストが低い ・回答者の負担が小さい 	<ul style="list-style-type: none"> ・データの信頼性が低いこともある（記入漏れ、身代わり回答など） ・回収率が悪いこともある ・データの解析に時間がかかる ・非識字の人を対象にできない ・回答の意味がわからないことがある（字が読めない、説明不足など） ・回答者が質問を誤解して回答する可能性がある ・回答者にとって適切な選択肢がない場合がある ・質問内容にない事象をとらえられない
個別の集約的なインタビュー調査	<ul style="list-style-type: none"> ・データの信頼性が高い ・言葉を変えて聞き直すことにより、クロスチェックできたり、物事の前後関係を明らかにできる ・対象者の現実の事柄や問題について、彼ら自身の感じ方や思考の論理（原因、過程、根拠）を知ることができる ・直接対話をすることで、対象者の表情や雰囲気からさまざまな側面を見ることができる ・本音が聞きやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間がかかる ・コストが高い ・アポ取りなどのアレンジが大変 ・プライバシーの保護に気を付ける必要がある ・対象者にとっての負担が大きい（特に時間的なもの） ・調査員の質に左右される
直接観察	<ul style="list-style-type: none"> ・調査の準備が容易である ・正確な情報を把握できる ・写真や地図などで視覚的に記録できる ・コストが低い 	<ul style="list-style-type: none"> ・一時的な側面しか把握できない ・見えない部分にある問題を見逃す可能性がある ・目の前の事象を理解できるように事前知識を付けておく必要がある

表B-12 (2) 社会調査手法のメリット・デメリット

調査法	メリット	デメリット
半構造型 インタビュー (特にキーイン フォーマント・ フォーカス グループの場合)	<ul style="list-style-type: none"> ・臨機応変に質問項目を設定できる ・聞き取りたい中心の問題を掘り下げることができる ・予測していなかった知識・情報を得られることもある ・比較的簡単に実施できる ・コストが低い 	<ul style="list-style-type: none"> ・アポ取りなどのアレンジが大変 ・他の参加者の目を気にして、本音を言えない場合がある ・調査員の質に左右される ・調査者に高い能力が求められる
RRA	<ul style="list-style-type: none"> ・比較的迅速に調査できる ・包括的な情報の収集が可能 ・定性的な情報が収集しやすい ・個々の情報の関連性が整理しやすい ・ツールを使うことにより、ものや人の流れ、意思決定の手順、時間的経過、原因と結果などを視覚化して捉えることができる ・多角的な視点による確認 ・定量化できない物事の背景や原因を調査できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練を受けた調査者を確保しなければならない ・住民との接し方、通訳者の能力により調査の質が大きく影響される ・定量的な情報入手が難しい ・対象地域が大きいと使いにくい ・情報を操作しやすい ・住民を巻き込むことにより、プロジェクトへの期待を高めてしまうことがある
参加型アクション リサーチ	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模で、リスクを低くしてリサーチできる ・対象者がリサーチ結果を受け入れやすい ・対象者の計画策定・実施能力の向上を支援できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・結果をよく見せようと、通常以上のフォローをする可能性がある ・結果の信頼性を高めるためには、反復してリサーチを行う必要がある
SWOT 分析	<ul style="list-style-type: none"> ・組織の状況が簡単な手順で確認できる ・組織を強化していくための戦略などを共有しやすい ・組織の弱さや外部からの脅威に対し、対策が取りやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ・客観的な意見になりにくい ・詳細な情報は収集しにくい ・上司の批判や内部の不正など、センシティブな問題は確認しにくい

1. 参考ウェブサイト（一般情報）

機関名	ホームページURL	報告書・統計データ	データベース検索	分野
アジア開発銀行(ADB)	http://www.adb.org/	http://www.adb.org/Statistics/default.asp “Key Indicators 2005”, “Poverty and Development Indicators”, “Millennium Development Goals Statistical Tables”, “Environment Statistics” (アジア太平洋各国の上記データを国別に PDF と EXCEL でダウンロードできる)	http://www.adb.org/Countries/default.asp (加盟国の主要統計、ADB との連携状況、プロジェクト情報、国別戦略プログラム、最新ニュースなどを国別に検索できる)	主要統計 ◎ 貧困 ◎ 経済 ◎ 教育 ○ 保健医療 ○ 環境 ○ ジェンダー ○
アフリカ開発銀行 (AfDB)	http://www.afdb.org/	http://www.afdb.org/portal/page?_pageid=313,167454&_dad=portal&_schema=PORTAL “African Statistical Journal”, “Gender, Poverty and Environmental Indicators on African Countries 2005”, “Selected Statistics on African Countries 2005”, “The ADB Statistics Pocketbook 2005” (アフリカ各国の上記データを PDF でまるごとダウンロードできる)	http://www.afdb.org/portal/page?_pageid=313,165846&_dad=portal&_schema=PORTAL (加盟国の債務状況、プロジェクト情報、国家戦略ペーパー、最新ニュースなどを国別に検索できる)	主要統計 ◎ 貧困 ◎ 経済 ◎ 教育 ○ 保健医療 ○ 環境 ○ ジェンダー ◎ 債務 ◎
アメリカ中央情報局 (CIA)	http://www.cia.gov/	http://www.cia.gov/cia/publications/index.html “The World Fact Book”, “Fact book on Intelligence”, “CIA Today” (上記データを PDF でまるごとダウンロードできる)	http://www.odci.gov/cia/publications/factbook/index.html (World Fact Book : 世界各国の基礎情報を国別に検索できる)	基礎情報 ◎ 地図 ○ 経済 ○ 通信 ○ 交通 ○
欧州復興開発銀行 (EBRD)	http://www.ebrd.com/	http://www.ebrd.com/pubs/list.htm “Annual report: Annual review and Financial report”, “Business in transition”, “Environments in Transition”, “Economics of Transition” (上記データを PDF でまるごとダウンロードできる)	http://www.ebrd.com/country/index.htm (欧州各国の社会経済指標 Fact Sheet やプロジェクト情報、最新ニュースを国別・地域別に検索できる)	地図 ○ 主要指標 ◎ 経済 ◎ 環境 ◎ 法律 ○
外務省	http://www.mofa.go.jp/	http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/index.html (ODA ホームページ)国別データブック 2005、国別援助計画、ODA 関連資料	http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/index/anken/search.html (ODA ホームページ内にある案件に関する情報 (2001 年度～))	地図 ○ 基礎情報 ◎ 主要統計 ◎ 開発指数 ◎ 日本との関係 ○

機関名	ホームページURL	報告書・統計データ	データベース検索	分野
		http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/index.html 各国地域情勢（上記データをPDFでダウンロードできる）	を検索できる)	◎
経済協力開発機構 (OECD)	http://www.oecd.org/	http://lysander.sourceoecd.org/vl=1168009/cl=20/nw=1/rp/sv/factbook/ “OECD Factbook: Economic, Environmental and Social Statistics”（加盟国の100以上の社会・経済指標をPDFで分野別にダウンロードできる）	http://www.oecd.org/statportal/0,2639,en_2825_293564_1_1_1_1_1,00.html （加盟国の主要指標や報告書、最新ニュースを国別・分野別に検索できる）	人口 ◎ 経済 ◎ 教育 ◎ 保健医療 ◎ 環境 ◎ 通信 ◎
国際協力機構 (JICA)	http://www.jica.go.jp/	http://www.jica.go.jp/branch/ific/jigyo/report/index.html 国別・地域別援助研究報告書、分野・課題別援助研究報告書、国際協力「知識の泉」、国際協力研究誌（上記データをPDFでダウンロードできる） http://hotangle.jica.go.jp/ 世界HOTアングル（各国のJICA関係者や事務所からの現地レポートを国別に見ることができる）	http://www.jica.go.jp/infosite/index.html （インフォサイト：JICAの仕事为国別・地域別、課題別、事業別に検索できる） http://libportal.jica.go.jp/Library/Index.html （図書館ポータルサイト：国別主要指標、図書・報告書・雑誌、地図などを国別に検索できる） http://gwweb.jica.go.jp/km/km_frame.nsf （ナレッジサイト：JICAの業務に関する情報／知識（プロジェクト情報・分野課題情報）を詳細に検索できる）	地図 ◎ 基礎情報 ◎ 主要統計 ◎ 貧困 ◎ 経済 ◎ 教育 ◎ 保健医療 ◎ 環境 ◎ ジェンダー ◎ 交通 ◎ 通信 ◎ 農林水産 ◎
国際協力プラザ	http://www.apic.or.jp/plaza/index.html	http://www.apic.or.jp/plaza/tv/ODAテレビ （国別・機関別の国際協力の映像をダウンロードできる） http://www.apic.or.jp/plaza/odabooks.html ODA資料集（ODA新聞や「国際協力プラザ」他、国際協力関連資料をダウンロードできる） http://www.apic.or.jp/plaza/odakyouzai.html ODA教材（国際協力のインターネット教材をダウンロードできる）	http://hotangle.jica.go.jp/ （国際協力関連の図書資料の検索ができる）	基礎情報 ◎ ODA情報 ◎

機関名	ホームページURL	報告書・統計データ	データベース検索	分野
国際通貨基金(IMF)	http://www.imf.org/	http://www.imf.org/external/pubind.htm “IMF Survey”, “Country Report”, “Economic Issue”, “Finance and Development” (上記データをPDFでダウンロードできる)	http://www.imf.org/external/pubs/ft/weo/2005/02/data/index.htm (World Economic Outlook Database : 地域・国・経済指標・年度などを選択し、表を作成できる)	主要統計 ◎ 経済 ◎
国際農業開発基金(IFAD)	http://www.ifad.org/	http://www.ifad.org/pub/pub.htm “Country Factsheet”, “Rural Poverty Report”, “Regional Assessment of Rural Poverty”, “Country Strategic Opportunity Paper” (上記データをPDFでダウンロードできる)	http://www.ruralpovertyportal.org/english/index.htm (Rural Poverty Portal : 貧困状況や主要指標を地域別・国別に検索できる)	主要指標 ◎ 農業 ◎ 貧困 ◎ ジェンダー ◎
国連開発計画(UNDP)	http://www.undp.org/	http://hdr.undp.org/ (人間開発報告書関連のデータをダウンロードできる)	http://hdr.undp.org/statistics/data/ (人間開発報告書 2005 のデータを国別・分野別に検索し、表を作成できる)	主要統計 ◎ 貧困 ◎ 経済 ◎ 教育 ◎ 保健医療 ◎ ジェンダー ◎ 環境 ◎
世界銀行(WB)	http://www.worldbank.org/	http://devdata.worldbank.org/wdi2005/Cover.htm “World Development Indicators 2005” (上記データをウェブから閲覧できる)	http://devdata.worldbank.org/data-query/ (WDI Data Query : 世界開発指標 2005 のデータのうち、国・指標・年度などを選択し、表を作成できる)	主要指標 ◎ 人口 ◎ 貧困 ◎ 経済 ◎ 教育 ◎ 保健医療 ◎ 環境 ◎
米州開発銀行(IDB)	http://www.iadb.org/	http://www.iadb.org/countries/index.cfm?language=English (中米各国の基本情報やIDBの貸付状況が国別に閲覧できる)	http://www.iadb.org/xindicators/ (Equality and Social Indicators : 中米各国のミレニアム開発目標に関する統計を表やグラフで国別に検索できる。)	基本情報 ◎ 主要統計 ◎ 経済 ◎ 教育 ○ 保健医療 ○ 環境 ○

◎ : 詳細な統計データ・情報にアクセスできる ○ : 基礎的な統計データ・情報にアクセスできる

2. 参考ウェブサイト（セクター別）

（1）経済・貿易・雇用

機関名	データベース・ページタイトル	URL	内容
国際労働機関 (ILO)	International Labour Migration Statistics	http://www.ilo.org/public/english/protection/migrant/ilmdb/ilmdb.htm	各国の労働移動に関する指標を国別・項目別に検索し、表を作成できる。
国際労働機関 (ILO)	Key Indicators of the Labour Market	http://www.ilo.org/public/english/employment/strat/kilm/	各国の労働市場に関する20以上の指標を検索できる。
国際労働機関 (ILO)	Employment Trend	http://www.ilo.org/public/english/employment/strat/global.htm	“World Employment Report”, “Global Employment Trend”をPDFでダウンロードできる。
世界貿易機構 (WTO)	International Trade Statistics	http://www.wto.org/english/res_e/statis_e/statis_e.htm	“International Trade Statistics”をPDFやExcelでダウンロードでき、国別の指標も検索できる。
国連貿易開発会(UNCTAD)	Handbook of Statistics online	http://www.unctad.org/Templates/Page.asp?intItemID=1890&lang=1	各国の貿易・投資・経済開発の指標を表とグラフで閲覧できる。

（2）教育

機関名	データベース・ページタイトル	URL	内容
国連教育科学文化機関 (UNESCO)	UNESCO Statistics	http://www.uis.unesco.org/ev.php?URL_ID=2867&URL_DO=DO_TOPIC&URL_SECTION=201	各国の教育・科学技術・識字・文化に関する指標を国別・項目別に検索し、表を作成できる。
国連教育科学文化機関 (UNESCO)	World Data on Education	http://www.ibe.unesco.org/countries/WDE/WorldDataE.htm	各国の教育指標や教育システムについて国別に検索できる。
国連児童基金 (UNICEF)	Information by Country	http://www.unicef.org/infobycountry/index.html	地域別・国別に教育指標や子どもに関する報告書、最新ニュースなどを検索できる。

(3) 保健・医療

機関名	データベース・ページタイトル	URL	内容
世界保健機構 (WHO)	WHO Statistical Information System	http://www3.who.int/whosis/menu.cfm	各国の保健指標データを地域別・国別・項目別に検索したり、キーワード検索ができる。
世界保健機構 (WHO)	WHO Mortality Database	http://www3.who.int/whosis/menu.cfm?path=whosis,mort&language=english	各国の死亡率やその原因などデータを国別・年度別に検索できる。
世界保健機構 (WHO)	UNAIDS/WHO Global HIV/AIDS Online Database	http://www.who.int/globalatlas/default.asp	各国のエイズに関する指標データを地域別・国別・項目別に検索し、表やグラフを作成できる。
世界保健機構 (WHO)	World Health Statistics 2005	http://www.who.int/globalatlas/default.asp	“World Health Statistics 2005”をPDFやExcelでダウンロードしたり、国別・項目別に検索し、表やグラフを作成できる。

(4) 人口

機関名	データベース・ページタイトル	URL	内容
国連 (Statistics Division)	Demographic and Social Statistics	http://unstats.un.org/unsd/demographic/default.htm	国連人口統計など国連の人口指標データをPDFやExcelでダウンロードできる。
国連 (Population Division)	World Population Prospects: The 2004 Revision Population Database	http://esa.un.org/unpp/	世界各国の人口統計を国別・項目別に検索できる。
国際地球科学情報ネットワークセンター (CIESIN)	Gridded Population of the World, version 3 (GPWv3) and the Global Urban-Rural Mapping Project	http://sedac.ciesin.columbia.edu/gpw/	各国の人口統計を含めた地理情報と地図を検索、ダウンロードできる。

(5) 環境

機関名	データベース・ページタイトル	URL	内容
国連環境計画 (UNEP)	Global Environment Outlook Net	http://www.grida.no/geo/	世界各地域の環境指標のデータをPDFでダウンロードできる。

機関名	データベース・ページタイトル	URL	内容
世界資源研究所(WRI)	Earth Trends Environmental Information Portal	http://earthtrends.wri.org/	各国の生態系・水・森林・エネルギー・気候などに関するデータを国別に検索できる。

(6) ジェンダー

機関名	データベース・ページタイトル	URL	内容
Inter-Agency Network on Women and Gender Equality (IANWAG)	Women Watch	http://www.un.org/womenwatch/	“The World’s Women 2005: Progress in Statistics”や国連のジェンダーに関する統計データをPDFでダウンロードできる。
国連女性開発基金 (UNIFEM)	UNIFEM Home	http://www.unifem.org/	各国のジェンダーに関する報告書や最新ニュースを国別・分野別にダウンロードできる。
サセックス大学開発研究所 (IDS)	Eldis Gender Resource Guide	http://www.eldis.org/gender/	各国のジェンダーに関する報告書や指標を国別・地域別・分野別にダウンロードできる。分野別のリンク集も充実している。
サセックス大学開発研究所 (BRIDGE)	Siyanda: Mainstreaming Gender Equality	http://www.siyanda.org/	さまざまな機関のジェンダー関連研究レポートの検索と、その概要を読むことができる。

(7) 農業・林業・水産業

機関名	データベース・ページタイトル	URL	内容
国連食糧農業機関(FAO)	FAO Statistical Database	http://faostat.fao.org/	各国の農林水産業統計を分野別・国別に検索し、表を作成できる。
国連食糧農業機関(FAO)	FAO Country Profiles and Mapping System	http://www.fao.org/countryprofiles/default.asp?iso3=UGA&lang=en	各国の農業に関するデータを国別に地図上に表すことができる。

参考文献

- 石川淳志、佐藤健二、山田一成編（1998）『見えないものを見るカー社会調査という認識』八千代出版
- L シャッツマン＝ A.L.ストラウス著 川合隆男監訳（1999）『フィールド・リサーチー現地調査の方法と調査者の戦略』慶応義塾大学出版会
- 大谷信介、木下栄二、後藤範章、小松洋、永野武編著（1999）『社会調査へのアプローチー理論と方法』ミネルヴァ書房
- 小原重信編著（2003）『P2M プロジェクト&プログラムマネジメント標準ガイドブック（上巻）プログラム マネジメント編』プロジェクトマネジメント資格認定センター PHP 研究所
- 小原重信編著（2003）『P2M プロジェクト&プログラムマネジメント標準ガイドブック（下巻）個別マネジメント編』プロジェクトマネジメント資格認定センター PHP 研究所
- 国際協力機構 企画・評価部評価監理室（2004）『プロジェクト評価の手引き 改訂版 JICA 事業評価ガイドライン』
- 国際協力機構 国際協力総合研修所（2005）『社会調査の事業での活用』
- 国際協力機構 国際協力総合研修所（2006）『キャパシティ・ディベロップメント（CD）』
- 国際協力事業団 国際協力総合研修所（2002）『ソーシャル・キャピタルと国際協力ー持続する成果を目指してー（総論編）』
- 国際協力事業団 農業開発協力部（2000）『農村調査の手引書ー研究・普及連携形農業プロジェクトにおける問題発掘と診断のためにー』
- 国際協力事業団 農林水産開発調査部（1999a）『農村社会調査手法の研究報告書（理論編）』
- 国際協力事業団 農林水産開発調査部（1999b）『農村社会調査手法の研究報告書（実施要領）』
- 佐藤郁哉（1992）『フィールド・ワーカー書を持って街へ出よう』新曜社
- 佐藤寛、青山温子編著（2005）『シリーズ国際開発 第3巻 生活と開発』日本評論社
- 社会開発研究会編（1995）『入門社会開発ー住民が主役の途上国援助』国際開発ジャーナル社
- 社会開発研究会編（2000）『続入門社会開発ー PLA：住民主体の学習と行動による開発』国際開発ジャーナル社
- 社団法人国際農林業協会（1995）『若干の調査事例にみるラピッド・アプレイザル方式の概説』
- 田口正己著（1998）『社会調査ハンドブッカー暮らしと社会調査』本の泉社
- 谷岡一郎（2002）『『社会調査』のウソーリサーチ・リテラシーのすすめ』文藝春秋
- 中村尚司、広岡博之編（2000）『フィールドワークの新技法』日本評論社
- 森岡清志編著（1998）『ガイドブック社会調査』日本評論社
- ロバート・チェンバース著 穂積智夫、甲斐田万智子訳（1995）『第三世界の農村開発 貧困の解決ー私たちにできること』明石書店
- ロバート・チェンバース著 野田直人、白石清志監訳（2000）『参加型開発と国際協力ー変わるのはわたしたち』明石書店